

## 感謝がつくるモノ

岐阜市立長森中学校 3年

小林 匡

「愛してる、ごめんね。」

この言葉を残して、ある女性は、帰らぬ人となりました。彼女は、ある凶器で、不特定多数の人に殺されました。

では、凶器は何で、誰に殺されたのでしょうか。その凶器とは、今、みなさんの身近にあるSNSです。犯人は、顔も、名前も知らない匿名の人間たちでした。

この事件は、みなさんの記憶にも、まだ新しいものだと思います。一人の女性がSNSでの誹謗中傷により、自殺に追いこまれた事件です。このニュースを耳にした時、1つの疑問をもちました。

「人を殺したSNSを、はたして、このまま使い続けてもいいのか。」

だから、僕は、SNSについて理解を深めることにしました。

SNSは、情報社会である現代において、必要不可欠な存在で、幅広い年代で使われており、簡単に、情報や意見を交流することができます。実際に、僕も利用者の一人で、常に、SNSを使って生活しています。本来の使い方ならば、社会にも、人のためにもなるものです。しかし、裏を返せば、誰でも簡単に間違った使い方をしてしまうということです。例えば匿名機能です。本来ならば、誰でも意見が述べられるため、プライバシーの保護のために使われています。しかし、この立場を利用し、誹謗中傷をする、間違った使い方をする人がいます。人を守る機能を利用して、人を攻撃しているのです。では、なぜ間違った使い方をしてしまうのでしょうか。僕は考えました。すると2つの原因が見えてきました。

一つ目は、根本的なシステムです。簡単に情報を知り、簡単に自分の思いを発信することができるSNSにおいて、一つ一つの言葉の重さが、新聞やニュースなど、公のものに比べて、全くありません。だからこそ、顔も知らない相手に簡単に暴言を吐いてしまうのです。また、一度投稿したものは、ネット上に残り続け、拡散されていきます。これは、もし自分が、見られたくない、知られたくないものを投稿したり、されたりすれば、それを面白く見る人間によって、遊ばれてしまいます。このように、SNSという便利なシステムは、少し間違えたりすると、簡単に人を傷つけてしまうのです。

二つ目は、利用する私達の問題です。僕自身SNS上でよく、誹謗中傷とみられるものをよく見ます。このようなコメントに共通しているのが、終始相手を罵倒して、自分が正しいと思い込んでいることです。いつから自分が、上の人間だと錯覚したのでしょうか。いつから自分だけが正しいと思うようになったのでしょうか。心の貧しさが伝わります。僕達日本人は、世界的に見ても、非常に恵まれた生活をしています。なのになぜ、こんなにも心が貧しいのでしょうか。それは、自分の生活がどれだけ恵まれているか、自覚していないからです。

僕は去年、発展途上国であるカンボジアという国へ行きました。国民の多数が、恵まれない生活をして、学校へ行けない子ども。お金が無く、湖の上で暮らさなければならない人、そんな人がたくさんいます。しかし、彼らは、異国の僕たちを歓迎し、お菓子1つのプレゼントでも、見たことのない位の笑顔で感謝をしてくれます。彼らにとっては、小さなお菓子でさ、大きな贅沢なのです。小さなことに感謝できるからこそ、彼らの心は豊かなのです。僕達は、感謝という気持ちを彼らのように大切にしなければいけません。そして、今の環境に、まず感謝しなければなりません。これを理解してくれる人が増えたら、周りの人間を大切に、誹謗中傷など確実にできなくなるでしょう。

これまで以上に、正しいSNSの使い方と、対等な目線での他の人との関わり方をすれば、本来の正しい便利なSNSとなるでしょう。しかし、それができないのが現状です。だからこそ、僕はシステムの改善と、人とSNSの関わり方について、一人一人が学び、考えるべきだと思います。システムならば、一人一人が理解できるように、教え合い、学び合う場を、子供にも、大人にもつくるべきです。場合によっては、アプリ内での罰則を作ることも大切だと思います。そして、僕たち一人一人が、優しい気持ちになれるように、言葉の重みをかみしめるべきだと思います。

人という集団では必ず、自分に合わない人間もいます。大切なのは、好き嫌いよりも接し方です。優しさがあれば、あの女性が亡くなることもなかったでしょう。これはSNSに限らず、いじめ、差別でも同じです。人を大切に、優しく、そんな未来を作るのは、僕達だと思います。